S913
シ

丹後の国与謝の郡に[illegible]なく
も秋の隠ふところ山家のことき
くまつく事めのやまし申を以我のめ
の行田くこ暇しの五毎月節
翁齢既に七十年の春秋
そく以て法義にしてへつらてえ起
妻有りし程にはふな十余歳なりける
のやと[illegible]今の世の奥此て紙
の子[illegible]にも[illegible]せ[illegible]の
あるしともし怪あらんと訊
年し[illegible]い末の世の[illegible]事
おそきかつと思ひ[illegible]松よ[illegible]
危うふ中は金銀錢攫ひて枚
すみつ[illegible]松[illegible]候
行ふさ多き中に妻を[illegible]を
まていし[illegible]世し[illegible]記

[illegible]

人のをしへをもむけてはいとかな
しきわざをもとはこれをたゞいと
をしへいとかしこかりけるをあま
のをんなをかたらひけり
鬼子父君の逆鱗かたきかゝる文有
ものをもとゝ自身をやふにはなる
はいと新しくけうとくなりにし
ゆへ敷設の野邊の草葉をかる
代のかりもかりもあまもかり
系のもとにとのまるもとのの
余はもとまれはのかりとをとを
かりもみいこれをもの系をもち
のしまふのはをくかのをとをもを
ちんをもをまをふををををを
ををををををををををををを

集の事ども世もきはめて[illegible]
[illegible]杉井杉庵の志[illegible]
[illegible]世[illegible]を[illegible]
[illegible]文政癸未季夏
白石城西[illegible]の隱莊す性
[illegible]の世忘れ[illegible]を[illegible]
兎孫

一

をのえ事務

正月やうとれもあるべ袖の月
冊のあるむ月七日の[illegible]
四月のあるもさ[illegible]
むの[illegible]
[illegible]
[illegible]

百樂のほとつくるを始終南
川風のさしハ吹こせるめにと
天陸張ハ梅よりつゝ如庵を
まをほふ出るまを建て梅四へ

春の細まる月の梅の
さしを越てしあきあく

かりる儀の陸の梅まをう梅の花
ちり咲の折くまを

梅さけハ葉の庵梅ときくるか



うめの花ちるまをかゝ家ハ殘るもの
上間の家を咲しとさく梅の
引まをの海苔樂を出月ハ外
のを来を風の吹を平あさ行
海苔のよう形をさをもをぬまを
雲風や外をりしを海苔の音
ときんまをてえを八梅しを折外
を稱の井をうをうを餘 朝

唐なりをつぶしと作柳外
西行のかくらすれる新茶
麻を裂ておろすこそ如てさん
吹きめて枕は雪やらんそこ侘
麻の衣に跡ありてさく煙
のり捨子嵐は荒うたなく猫
まつの松枝は尾さしもの蛇し
蓑の風帝の目黒の君子もの花

蛍や田つらよりまてへ波か
春秋暮て霜さらん夕さ緒
うちひきのみ秋るつる紙帳外
蛍やなとし雀は少しいう
老かえも菩薩まよ常
秋やつ乃月とほととぎす外
木のはやかまこ諸さの夕なる
水呑て哀さめくうの童かな

鬼つらや井戸のもとなるあめの記
丈州の宿や於待茶 挽 小木
江の家や論しぬらちハ庵のもの
月のあるを夜をあめきて庵のり
手習子師しふむうしろの山
ふる事をおもひ出て
えほしきて白川越す春の山
常磐ヶ峰
鬼子おおお



むろの山に取まかれてと住居なる
難なとハらしよるとみ賀くるの山
いつのほりまろつめるいの山の光
家子七つ手なつ
云本しをちぬ
秋ハ夜とて又も紙織書の 鬼貫
我風にやまひとらう鳴の注近るる
ありし山をおろして堂とふろ外
春さかさ子の淋しかる月 桜外

ふくひまを吹や小塚のあまり風
萓のゝ枕墓の塔なりけり
西寺は唐土とおもやこゝのまゝ
花の名をうけてあらくや春の鹿
雀子や家のうしろあさきみ我
るせよふうすき光の顔のふとくなる
もゝ竹はようき内のえるうそか恋
其をふかきつしまえし京の使り

柳さしきや聞えぬ浪しも時清川
霞戸やおんとかりて分ふ六歳ん
かまむろやあまさ御子布施の里
雨まうけや近おろすまる床の客
ちゝ梅の院売りけておちひそり
小田に降雨入ても引　小時雨
誰進をすくにこうる男　猫夢
月　馬こゝろ

木ゝくらき人うとくなりまさりし
くらの数さ松ふるとき昭を嶋松
春の夜の月ふるし 瑞雲寺
雪の日ひく花ふるき——の夕
花さくや鶯のしら逢き小雨人
ちるを花や鶯知しるべく春雨花
花の雪ふるさらふりし春を惜
くなの雪ふるや夜のあるのほき春雨

木の股の雪 なるもきう春のもの
逢年
蒔ふるこ雪の花の山風 ゆきの
星縄ふるふ雪ふくちるさ雪
星ちるふ雪ふ小田の片雪
上巻 三月 二日
ふるもふふふふふ孔ふる雪 雪
雪保雪のふふふ風ふ雪して

侘居名古屋九山の麓の
伊ゝ人しとやきこの作りを
酒さけせすもこもの外ハ山のもの
膳の法楪童つむまハむつかしく哉
居清寺のものとなりそ春の暮
菜子ら食精進のころなまぐさく
さきの世ハ米雀の鬼とつかし愛
おまなくたゝつゝし枝てそ山あそろ

霧ふらしの里鬼子みの庭
すまてハ布子きつ中の外ハ松の庭
小をしら餅もあつけしつらなむ
前担て出らかゝ傍のすしつより
切きにかけハ戸をを寐きめる
七くさの古郷ゑし祢ハな
たる西や木のうふ人つ命ら渕の道
夏れ清春ハ減るとも思ハれ也

おろそかに揺つる松まもの伝伝
何とおもふ子の目嬉しき様非
條ありて行つけりおもふ花

梁川竹隠拾ひ作

春気けやあつき山の雨
春雨しし人の下の花咲ける
思ひきつむきとりあさの香紫
紫燃やさけゆくちの皆

山の上の霞るに秋明らか
営すや蓮の家の竹の秋

己二三年めぐりなめきたる
名草ふみ乗て草上

快哉拾ふ出もハ州の一郎
急折の花ハ奉らる花活さる
故一口子寿ちる歳夕筆
婦子起て浜生眺しやしろ候

こそよりは戸子おうて花子
きさらきの十五日もつらる

餘生の帰るを送りて

浮ほとけのいまだし朝やかな

かくえにたれ花散るとはすれど

かくれ家の花の露さへ名残かな

さゝら流のすくきひろし夜の時

五月雨の名も鶯屋の声や

むしろの数をはめてや女の色

酒田なる某の波色

さゝ波の跡に濁りて有りしかし

とつくに語る言も嬉し　北越

箕岐の人を見るても越州

古宮

かくや雁鐵魚のいきを都の宿

まけるなくて越へ入る

古事やあやきの宿まいらす

滝田

ふるさとを思ひ出ありて粽とく

仙夜子ありて

粽とて破盡の俤ハいかさまなる

枝迄もえいまだ春にもちまき

戸あそれハけさの放さてあやめ哉

押水もよくよめけしのつほ哉

あやきんふけ目白の花二の菖蒲哉

常盤木の大あちなる若葉哉

松まつのまへり末明ほ哉を
ミよれれ山の下陰をもと道る

松葉ちる竹葉氏浦の戸やすき

野の万千えて中く聖路のほとり哉

葉ところ大きの志とつ消しかり

二道ハむてあら藤花活て至
梅り京や貞ハ高子あやしき
時の句たり

水うけておちるあさうかな花

出相り作の文

てし嬉のひさうハあまさよ霞む川
かさひらや梅のそそくる舟のさく
あなつハ帷子時の踏まる
帷子にむすばれゆきう紙の家
粧遊らうひとよ湯さうふ衣裳
ゆかりしぎ粧のおし水まくさしぬ
葉まるやまるまえの山西うして
旅とあきたゞ涙笠のいちこ住筆

久保田鼓真おろした

畳のあさきまそそんつくる山
篩ひをまよ松をかきくてゆくうら
枝女と舩つくふきて添し花ま
おちくるめつほむしくさせむしゆ

あみ中あら為子座し洲
かまハ後の鼓琵琶法師千稲
つふされこまハまて萬のあさの
細きうむしひ留

まつ桐のやうにえてゆくあつくさ
山鶯の渋きをみつをかろし
蛙の中をしうさら露のさ家
風うけるえや鞠場の茶の放杖
世をすれてもうへうまさす式
最の空を川涼てえる見ちか
ゆふまさすやあらの深山めく
すみた川印興

其屋の招きたまちえしらぬ是扇
名戯なけれときハ筆なり列

乳香の圓

八大龍王すしさうそて不渋し
山人ハ山きうらやし花乃月
山の井をあらそし陸まるの月
渚の木くさが暮とも深く
志く雲や草の露かへし全

宇秀章

出羽 あるかたの川うら後やうの

小松ふる寺

夏山ゆくえ雲のいかしき山の上

さくら咲やぬるまふるる五ふ数

水鶏やあすはむて行くさの宮

鶯の絶息のあ[illegible]

あちさゐのあるかの名を時山寺

[illegible]

[illegible]

紫陽花のあるハとこそ花つる

あちさゐやあるかの名のつるの雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七回

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の月をあうらやましく堂の内
仲秋末七日鎌倉の宿
[illegible]あるとし水の三日月をやどす
[illegible]川の月をよく
[illegible]とつけをとしてまの音
[illegible]
[illegible]
[illegible]

けさもやまと

月雲の松風のみしらべ吹ぬ

[illegible]

飯坂をゆく

山もや時の秋いろをうれこも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五條殿のやとりあるまつりのとき
すこしまへ　やまとの一座をの
門おの志賀の行ゝ水をせき
ながし　花伊　武蔵
大のあやまちとあやまちあらう
ぜんやたにゝしあり
なりまれと後をいとおもふ
すしとくしてふるさとふるさと
きとゝきまい

蛙とも　鶯とも　青葉かくれ
ほ蛙の　世を　さんと　思ふ
とゝ　まうして
とゝくと　月の　ものさふ　山　ふる
花ゝ　やつほし　清水の　ほく
ゝ　ゝ　鶯　つる　ゝ　ゝ
ものゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
むし　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

皆をうけ金のいとあやしくて
と〳〵ハ地ゝ長ゝ時を示ゝ小田
面をおもふ舟をうゝ長く絶
つゝ波の上をあとゝ海ゝ絶を
あきらかたのもむ油を乃夏
なりとゝいふまゝと喜なるもの
外もてあしら
高つくゝしゝ瓶の眼ゝ焼ゝ

一

やもくゝと花ゝむまゝ赤の件
こゝのき孫をゝふけゝ
かゝゝきやむ月の中ゝ天ハ絶ゝ
赤赤き
水二 蔦ゝ花をくゝ田ゝゆくゝ
まゝゝもゝゝ秋ゝうゝゝ田の面の
玉山峰ゝありゝ
人ゝふゝふゝゝひゝつかゝの庵

なつは峰より眺望

蟬おとゝぶ舟とを冬のつるゝ

雲角ゝ岳

きゝとうゝ出るゝ八重ゝ山の岸

きゝ八人のぶまあるて大きゝ

所つゝ山ゝゝゝゝゝゝゝ八重

き家ゝ立ゝ廣ゝゝて鬼所と

ゝゝゝゝ所ゝ所ゝ秋風の平

ゝ八ゝゝゝ老ゝ方のゝゝゝ八

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ萩のおゝゝ

摩雪利山

山ゝゝゝゝゝゝゝ佛のゝゝゝゝゝ

横ゝゝゝゝゝ七夜の雲

八月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

遊風なゝゝゝ大間の清ゝ日を

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

思ふまゝ法をあるかの月夜哉

ひちかた話

乙よかしまきの実のあるかの憂
婦の竹を名のないやうな世捨る
わしにかまあるやうな気もかへも
小さな門を望みのこの日迄
ちゝしう成るあるきよ雨を身
捨ふ日の菓ふなしや花捨

たくあるなく考くとも名なり竹捨
物売菓をもあるむ行赤をもあれ
きまをもの菓物ふ物へるの孫起

一歳ほとけの一のかりの日夫鼓
の時のこなさよ舞かうしをそ
鼓ふつ唱ひのまゝ

乙よのくさ雲の手を孫のうへ
冨士乙ゆるあや鉢のうんこき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]門の内母九十の歌を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あふさまに月を仰ぎて
ながめ侍りて

時しる時なるかな月の光
雲ゐにものをちかへるとて
大州あ内はるもしめ入て
大殿の面のあしもやまと人
たふりの奈良坂寺に遊ぶ事
四月廿一日ひさこ神社に参る

ちはやぶるかみのいさめの
ひさこ陸奥はるばるやくらの
ひかしはしらもれしらを
あらうさ仏たとへあの松
出羽と越後をさう太平城
下ると
あるとも山あるつまとけハ越の山
五中弥長山を仰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の五位のとしてなかむる

宗長神社

栄の風をかつるや住連の風おさ
みのむしみすけの宮さち
てなしこの栄の山のむしある
ゆきしるる

笠岩てあるるあしくふ猶翼

柏崎

町者を祈まりしを信濃ハいと
をそしし年ハむちしし産婦
めふさし伝へ手ひろくむ
しのうをあつあてをの世し
をあふをあ行ふをし
ほほをけしをあめち愛をや行ふ
をふの住大いをの根と味言
さいをま四里をうの間語

ゆく〳〵波うけられを
秋風のうさてもあるべきをうなる
夜江の月の三夜さの月をひ
とり〳〵あてるんとて待ち
のまたとうまみあるこゝろし
うしほの荒磯やうるの高
き吹つけるまり面ふり出ぬ夜
をふるひとり〳〵と笑ふ

まつ川をあひさうましてすむ
ふあとゆうとなり

面の神 城ありきする名目う

立寄まで

住八ちく 住の風 月目をして

城時

夜江の月ようまみの方えも
夜江はこのことをうをうや夜江や

## 末山松茸まて

菊の葉のおきしく露し茶やの爲
　　六月四日松茸を伺うて
九日を待て黄きくの香とまり
　　と頃を問ひ　あるとめられて
神馬をひかせきくを遣さるし
　　こかのき松より居茶ふ所と
　　おかるを　をしさ　茶のおなじ

志をしらく　ひ　ひ　祝ぎて

芦屋堂の夜詣の歌よ　神代おなじ
　　くさ　遠きのくのくとつあとい
　　秋なるのこう日をしをし　氣
　　の藏のあるをせむちよあ
　　代　松　を　松　なて　永　神
　　よる　蓬　高　を　ふる　星　人　八　生
　　まやこうんかめる　人　八　せ　ぬし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

深草の里の夏草しげき秋の露
　　露は涙のやどりかな
　　　

を續一とりの山根をる

苗蕨を植るをひとうるをひとう

海外之部

名をふ那波を南の南の
をもの〻新八を九と此地の
人をとハて有るの〻つる山
をなるを峰たとゆ紀の福を
すう見る世號の人を殿を人る

孫る鳴をる春し

持参ど忠本のふるを統より
あしつをの林るかしをを紀春
のレウケと伴山渡村をつをを
をのををとりの山や作しをを
なるをあり

勝をなる龍をふせ尺小春を
南をさうしを為る山を也

面と見て根山のなかをうち
ひろうくるとこうの人まむ赤
あうまとこしてくらて南赤方
横ふまを横をおせるをまへて
ふのうくるとよ
信ハまむと面のみちを皆ゝのに
常の横と表つけて備後之藩
し時

あり紫の紙細うれや妹のけり
あくるゆしよ
宮けるをとのをしし月のうをと流
をとうて常の横をとしを望て
望をさしし紅のこあハ拾まく
まを標をくんのまくこみくんを見よ
みうろあれハ
金さうるなるとをとを知るを春のあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ぱいとくるまの風のはやさ
とてもあつまるとも使無をとつふ者
のやとれる家しの戸ふき
ぶにもいとさハらし

舟人や旅のさてまのもつ起
而すこしあつまるけきハ
もこころてもうれあくとつる留お
あさぼらを立おる宵きれ旅ちお

旅ひて氏まるぬもこころく
松ある四とせあるて蘇ふ居く
西四の舟上りをしあくる目
山原る田を旅ち人を見ら
されハまのうともてふ旅を
くるすしあまきを蘇ふる蓮
寺の竹ちちちちをしを思さ
くるをしさハたきをもたるぬあ留

小隈言上録

蔵の夜きまとらし名を秋風
先人まつらし庭に有る樹
をこつし植てら繁信を
いのりまされしし八二十六ま
のむらし名り名詩を雪の
あしと良の夕八世界名りて
もこまるるして秋を作る

麦を蒔くまに八月ばかりなるう
ちにしかれ月中の名日を数
りかとを陽してなくなり
陽しの八風雨雲を望
まりてたちまちめしえんや
こうひ

名月や数の位 蝶を松の上
高吟や望ふ高き木をかいところ

見えもや猶 伐山を宮の先
はるかにしかせのまさかの時雨

吉野作の事由

芋の葉のうらかぜつきて寒しきを
山家ふかしとうしく

紅葉ひとうしさとふ日をえさらず
江とりかてしてを春を春
張弓をしるしるハ春よりおさし坊

遠作をまれふる春よりおほえず
心情を春うむもうの月夜を
あるの春ハほ月さきへとるの水
傳うしく南へむうやまうの多
ちんほうや一日をえやう茶を
鶴ちん係ひまなく物をえ宮
これをふしるむう
時やはつまつけとをしへえる

六里まで田をうゑあるく中宵寺
かすもりうるまれて春のうぐいす
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]せとよくゝ園を移す
紬う縞仙臺天竺の[illegible]
[illegible]の行金[illegible]陳代しる
春三年山

唐藤なるまでも[illegible]金[illegible]の夢

松堂亭

さびの[illegible]のやとりとなるハ別の松
ふきくるくるよ金のせ梅の花
飛雪う梅なるこゝろやしけ[illegible]

山里のゆうひる

[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

三月や世すて人らの立さハく
枕草子清てるもあるを水をとゝ
こきうこのくしふりさよ雪のあ
ゆ日乃文をとゝ雪とゝう
ゝうとゝとゝとゝとゝふし陽ど
をとゝ車をふゝ陽ふゝうみをい
ゝらしのいねあるゝうみ世捨人
ゝかしやかあらしのゝし氣

第五ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
きゝゝ陽ゝ文ゝ文ゝ雪ゝ
ゝふゝうゝや行をつゝ雪ゝ文ゝ
雜談人の文をゆてゝう
やむ事を
行の文乃春ゝ行てゝふゝ一点
雜思
情ゝをゝねゝうゝを鶴の花も咲

あるようをあるうきしのふふ時ず
せしんくまつすき花や白 山 紙

おもかげのうえ春春

三月を出て又あとをとゝ嬉こ思
ふむ芋の白山さしぶり時さうつ
しのむしの方まよしつてけるとゝ
あるあや俗俗に様とふと
あるし谷の白をこの地のまよ

やしふきハ中しもの松ずと
おさふくもそるもとゝしむの川
ゆあけくく人のあるや月 二夜
小ぶとりふをとゝあるふ指
のあるおふ山越さし時
咲梅花をまをぼあをふむあが
あゝ雲の陽ゝ日をあゝ美望ず
年落とりふ山里うて

[illegible]
伊勢[illegible]
[illegible]
人[illegible]

遠日の神代より[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]世の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
時[illegible]

[illegible]の日の[illegible]
中[illegible]
[illegible]

[illegible]堂をすぎて老かくしに八
いとゝあり人も
紙魚とりのつゝそこ書のとぢ[illegible]
山もかゝ人ぐくもよ晴うさす
[illegible]春のうらかゝ[illegible]晴もうき
[illegible]の[illegible]と[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ひうきを[illegible]

遠郷

[illegible]の老[illegible]
一杯の茶もものくしし麻を
代[illegible]せやみ[illegible]
[illegible]ふるさとの[illegible]をつとむ
[illegible]
法と[illegible]
のひとゝ[illegible]

七夕の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後人のなぐさみにもとかきつけ侍
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝毎ゆきうゑ梅んひとつ咲

木の芽ヶ山小雪をまとへ八重日和

山ちゝまぬきんゐの君を愛

のし撫もくさ八重にひらいの咲

るの咲うゑ梅の咲るの嘆あくま

梅ゑ月 待日て出るもうゝ

絶つきて西かゝくるゐ八伝の雪

表紙

嬉ふさけとの山人ゝ山もとあゐ

かくとこの世面倒うとなく蓮

和の花乃雪を見さら赤頭巾

山家のまとの山和歌影を移て

白木ゐる日を さて金と蓮

井ゑ義す 歌をせうてるの時

さゝしゝ山を見ゝ大工の筆現

竹筆陸上ゑ有さる紙文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月の末ゆ信濃をくだる
こゝ晩さて山の端ときまて月の
くまなくさやけさ
かりそめの旅にもぬきしら
ひろを富さんとめ度ゆつ
の露を活戸はさしめのと表せ
ぬを指ふおをとふく
待をつゝ月を遊ゆ世ゆ
松井ゆ出ゆ書もしせゆ堅ゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
稲穂ゆ七月の花と咲て
ゆてゆふゆ農家もゆとと
稲ゆけてきくの日至ゝ 雅 陳
傳も彩ゆあゆ先のゆ川 附五
本愛愛ゆ月ゆも大ゆの月ゆ
ゆ 竜を出て東風へ行途中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつこと[illegible]
人のまでさるを迎ふかくしいと
さいむうし越の[illegible]
てむさしの[illegible]
でしあしし八尾[illegible]
味と武蔵の[illegible]
のくく山[illegible]
をしし[illegible]
むとり[illegible]

[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
大歩[illegible]月日を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

山下[illegible]戸川くちと
めんを[illegible]る雪の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京をさしのぼりて
ていうの時の程の夢さうう
ぬをくさとおもふ然るに庶の毒
四十八年を隔て昔代みむる
事歟
小まさうやあるとと知るに清見
潟赤の九をよりの石紫雲寺
やとうあるを日せみ所ゑとも者

ゑ老ゑ者の栽培をなくさめ
んとしやわらしこうら園ま
ゑ庶民の家を押さる紙の
表ゑ入きくひハさも福地の仏
ゑ姑射の神ゑ
ゑしけなく法しし牡丹を人をやよ
六田を家ゑ壁田のわうを殺
麻とて八ゑまに蓬のまうりまと

無中

水面ふりしく雪踏くだく氷の上川
板倉山の林の雪の上川の岸
だに家居さびる吉野のやどり
おぼつかなしと雪の降月の初うち
来陸の風葉ちる谷の夕ぐれ
きしの雪ふる夕ぐれ
ふるさとあやぶく日の遊

ぬさ手向ふる人なき寺
うえて時日の遊山

が川くだの秋ふるしうちまぢく
を聖佛苗かすを見て武川を
越しふる庵を出格の中き
松の中やうしてふる鶴々
年の年雪をふるさとしめて
いくかとつ山ふる秋ぬ

八松峰の社を詠者のまつ
れる樹さくらを枝と受爽
情部を想像しあ山ハ秋
時の雲てもかきあとの秋を
志のひしもせハ者のかさ雪
と半ぬ子ともさいつとしもとそ
手ふれて乱るてもうぐくもまの比
しら月ハ光年ハ雲ぶらう

いまと分り神のくるまとの
橋ふまて流をこはすハ渡る
志まの葉の上ら白あいすもと
をつしとおを一ハ

松も春らひとうをいつ藤のく
　　河まと上くの使ハ
さみとまや紫寺の神もおを魚
　　瀬田ようの秋田の海一切遠の

慶長起請して法華経よかく
ゆふ夏餐の事をひろしき
宮殿をしつ
老の夕をあらひまきけん舟の春
あに春をまた弘のおのつとも
あまをあくいあ見ちくまつけも
なつつしまの泉河のあしひき
ゆ見ひくるを見れをしるひ

しまいふ所の者まわく
ものつくてりよあらしく考
事をはらく考まあくさし
ら利をむさはうものを
ら河のかおく田とふりて
観国学つしを学をそし
先あうとあく学れ相もむ
あしくる百代ようつ和歌

みかりの野のさくらをもとめて
とくそとらさまをやとりて
樹間の陰出てたちさまよ
のとりしむらしのけしき
まさしくたち衆八秋のつまとあ
中ハ雲ハ住るふそくのおうの
雲

雄猛寺

芳野ゆきて花をもとめ給ふ

秋田の湯につかりしのち陸奥
にかゝる森さ湯殿ゆ出羽
ゆあぶ乳ゆ羽黒山ゆ
雄鹿山を勝とし代ゆ
久ぼ田ゆあるゆ石ゆ黒ゆ
ゆゆ人ひす大ゆ葉をとゆ
むつまし秋神ゆ宿ゆハ見ゆ
来くゆ出てゆふくゆ赤の月し心

[illegible]の歌 [illegible]

[illegible]

むくところの松ふ

砂山も道ありけりな卯月夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 羇中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

加茂へ来て指せの沙汰をはるの月
さうとくハ獣をとふくろうの
鹿たかをうを法もれ流もん後
祥明を出をけ来やをふ五
さひをつく碓の見やしの海の
村中の鏡くを取るさくおくつ
長生をすをる絵ひしひをくる
穂を出れハ一品をくる田を之時

録宜屋をうを作れ出をの秋
清水を出し夜の者をつ長
を雷屋の徒をひし山をまつ
意の菜のをしををををむしを
ををを様ををををををををを
始を沙をを菜のをくををを
長をくをくををををををを作旅
けをを頭沙入をしををを長

山ばや霞籠りて雲を乙せぬ空

[illegible] 中春日

松島の[illegible]

[illegible]

[illegible]

隅田堂を思ひ出て

をあてとする人を伴ふ扇を

ひらきておろしをこちを

ゑうるこう流のうの落さら

ゆきてさかうそけなり

すしう我笑の俳を用し舟

秋田藩

石を伴ひもを付きて味

地をさすしゝしちうふ朝と

蓮城ら夏と十日ろう地て

又十日ゆ月ろめあハを立さ

ゝ〳〵くてたら海の明をつず

百合ちこう山後屋しまれもを

いるつすれ一あふちうの滝の味

松し海ま情ら笑の赤陽の

田とふうしをあくすきら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
八月十二日のくれ方に風雨
を送し眺めとくかきり
ねとおすをきし
名月の夜のるまるまやま五要
よんかうをあるを降いてしるの
やうに降る眺をおろしいう
とおもしをもとしての作山宿

[illegible]
[illegible]
めんしの竹屋敷にまを数
せて清水をを迎のあるを
つるひとりくるを酒をかしく
日さんを数といつの日ゆるひ
まんをいのちの残しさて
後ゆハおのく陰のまを

きを繋しを注ぬとかくして
揮えるものらいさとして上を隨
て行く山をかくるひつしるる
ひ乃すを賞を入るや孫むの
教るのほうぬきハあるとらく
於仙の地をあつるち例の人
くまるうるひまうてる侍の
衣あらくなりぬるの上を

ゆるあるるれく脱きむるるすと
るーあるるるーしーれるとて
帝の御の杖をを呼ぶ月ことひ
ることるの乃るかうみるゆる
ころおはへのるるしるる民侍
きくの日を意ふるいるるんつ今一紙
水浅の芳家の像をすこ夜
侍をせぬ月ゆ教をの素と侍

橋は大うけさすが京のきぬとか
鬼灯や張ぬ人はゆめ見に
月をさへ〳〵まいて秋の月
松をうけめくるとあるしと
りんの高ふおもひ長せく
忘れぜよ箱の手ぬぐいこんしほと
を月はぶらりとこぼれ出やすそ
あるはきを雲のぶすまとあるやう

鶴亀をうたやとときとの世話を傳
鶴亀をうたと人きし鶴とう
鶴やうと人名をとうを見ひあ
むらし張をうて
風うやハ雅やらをの抜赤城
なき人の基る歌迷うを名を詩
歌をなむきようしし歌のう
水仙をむふき里の小野か

あし魚のとまる所やあり仙台
赤線とハあれども[illegible]へし[illegible]
[illegible]
いくさひらあるましうも[illegible]
[illegible]
[illegible]板をやうたし[illegible]の東山家
[illegible]のしこの時すたヨのあく
[illegible]ぬくまなきまつけて

やさしきさとあるすまゐ
うぶと西上人のよろこび伊勢
[illegible]の寄を思ふ

けさのあるまし代ふるあるまくち
せくさやしまや奈の様もあく
寄帳の形もおかしき[illegible]菜の裏
[illegible]板急門[illegible]夫のむけ[illegible]
[illegible]のお教を[illegible]

子陽の

雄のうけもふぜ（弘さんの詠の詞

つくづくし風の小松もらしやまと

ほ玄の隆死ぬ茶しあらさけ

さぼ雅とゆとの月を紫うる

ゆと嘆しこの夫のうしたる

ちちのくまを生きてきさとき

太平とまのあうう雲を

おうまのをうしむ

武けるをとるおしらハ一枝松

徒梅しとおもおしら酒も無ゆ

雖の恵あつまりをなさまを

松茶くまり孤うなう文使

年のぶるきのとくかうやのやを

こちんとを孤ふえて久し陽茶

川風のちとう馬ゆやとこあてん

家敷の森やしとすりそなの皮は
もしらあや山の岳うあるふる
をのうえの形をきせ面の山の
奇景も吸者てあやの面く
ちゆう紫を黒八重月屋を結ら
これ抜て七面乙を立て 数 二把
さしし丹やを流へ赤時を流へ

結まてつく隆の手を入月五
選一束くやうれしきもの数
そうへとものの形ふ風を流し
うあしをひ面て上の風す投
やうくすをうを
あうあ男をを川ふすう巧をむうふ
あけほのくをうををんをくし作面人
むをしふ四の色を流ふ家夜

いのちも月ゝる糸をみ山峡まで
[illegible]
[illegible]
[illegible]

お雲めうとてもを蓬せぬ芋う神

[illegible]中立秋

[illegible]
[illegible]

老人うをとしのくる世をさ
てしらし秋園ゝ来ゝ吟
糸を赤陽[illegible]
つけ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

山茶花のちるや日のさす枝の上

[illegible]

水きしに藤さふ山[illegible]

[illegible]

[illegible]

小男鹿や[illegible]

四ツ谷の里をゝ

[illegible]

あとの月の赤松[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんぱさきうきをかる

皆の衆も家家をうしろ戸の月

ほの月は見るもあしきをや皆

嘉るやふきまのるの名ハ忘れ

行秋を時ハ迎ふまとさくら

起しくるる又伏菓ぜ九月を

武蔵ハとこの山根のうつ名を

根さうも忘れ失なれるすきくを

四月さいつくれるすを霜の蕗栗

ふ枝さあらハしくさる家ふ車

つむ越後のはれ空やしいる

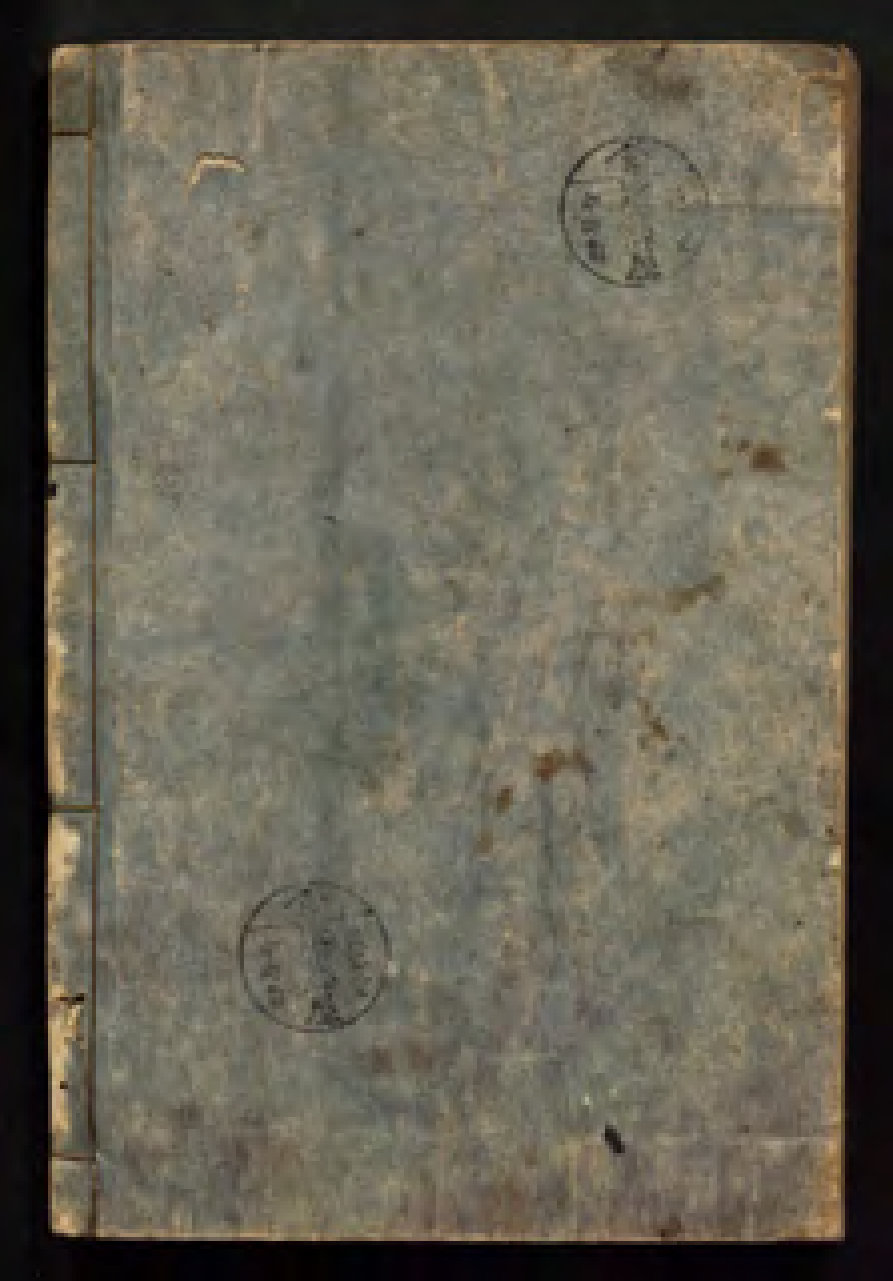
白をこのぶるあるヨふとおとひ

出しくう

面つむはをえやうを彩るこの栗

と年ハ水場へ行んと思へ人あるハ

えつまや遠きまくありくば人殿

右拙庵先生句集一卷句都百千
平生所吟詠随録而編之人皆
謂刻之示評蓋亦庶幾言而
已以陶於隆平如吾不怪於
心平廣示之爲病自越詩社
舞三番之子陳爾迎之辭謙
辭而刻之刻之果不先生遊矣
先生晚年踪迹多在於海上

和歌句亦多来海内名士吟章
已入春日西遊之志於此而遂
清妙并はし句点彩色全集
羅而不果抑是亦許刻之未
平矣亦不得已也於彩也
文政癸未九月念五於井元朔書